

堀内 みどり

標記大会が9月8日～10日にかけて開催された。公開シンポジウムは、愛知学院大学を会場とし、「宗教学の軌跡と展望」をテーマに、3部構成で行われ、オンラインでも配信された。第Ⅰ部では、主催校の林淳愛知学院大学教授がホストとなり、島菌進氏及び小松和彦氏が講演、テーマに沿った対談を行った。第Ⅱ部では、大谷栄一（佛教大学：「1990年代以降の現代日本宗教研究の見取り図」）、伊達聖伸（東京大学：「『宗教』概念の批判的検討から出発して—ライシテ研究の立場から—」）、伊藤雅之（愛知学院大学：「1990年代後半以降の宗教社会学 英米編」）、小林奈央子（愛知学院大学：「宗教とジェンダー研究の軌跡と展望」）の4氏が登壇し、それぞれの視点から、1990年代の宗教学について、これまでの成果を総括し、これからの宗教学に求められる課題などについて発表した。その後パネラー間でのディスカッションがあり、休憩を挟んで第Ⅰ部の講師及び参加者を含め、全体討議・質疑応答が行われた。

10日と11日は、個人発表及びパネル発表が、オンラインで開催され、10日の会員総会の後では、新たな試みとして「バーチャル懇親会」が催された。

天理大学からの発表者は以下の通り（部会・発表順）

島田勝巳：クザーヌスにおける教会論の展開

澤井義次：ウィルフレッド・C・スミスの聖典理解とその意味  
金子 昭：公共性へと架橋する信仰育成—天理教ひのきしんスタイルを例に—（パネル「宗教の公共性と〈公共宗教学〉をつなぐために」）

金 賻城：天理外国語学校の朝鮮語教育にみる朝鮮布教の意義  
堀内みどり：『稿本天理教祖伝逸話篇』に見る「赤衣」の表象  
澤井治郎：教派神道にみる「道」の教え

澤井 真：井筒俊彦とイブン・アラビー—アラビア語の「存在」概念—（パネル代表・パネル「井筒俊彦と東洋の思想家たち」）

なお、天理教に関して、東京工業大学の道蔦汐里氏が「新宗教の死者儀礼と現世主義—天理教を中心に—」、また同大学の青木繁氏が「天理教里親の宗教観・養育観・子ども観」を発表した。

第 351 回研究報告会（9月28日）

「神道教派の教義を比較する」

澤井 治郎

本発表では、戦前に「教派神道十三派」と言われた神道教派の教義に着目し、各教派の教義を比較し、類似点や相違点を整理することを試みた。発表者は、「道」という言葉で表現されていたものが、明治期に、「宗教教団」になっていくというプロセスに関心を持っている。天理教も、教祖によってつけられた「道」が、「天理教」という公認の宗教教団になるという経過をたどったのである。今回の発表で、教義に着目したのは、「宗教教団」となるに際して、政府当局より求められた主要な事項に、教義の整備があったからである。

それでは、各教派はどのような教義を整備したのか。これについて、神宮皇学館館友会神社調査部編『宗派神道教典解説』（神宮皇学館館友会神社調査部、1938年）によって概観した。本書では、教派神道十三派を一つずつ取りあげ、その教義が解説されている。当然ながら相違する点は多くあるが、本書の解説では、各教派の教義の「著しい類似性」が指摘されている。たとえば、万物の働きの元である「親神」という考え方、我を離れて親神に任せる（もたれる）ということ、それを「誠」あるいは「道」という言葉でいい、誠の道を強調していること、などで、基本的な教義の構造は、この点で一致するとされている。

こうした類似性をどう評価するかは今後の課題であるが、質疑ではさまざまな指摘やご意見をいただいた。神道教派のなかにはこの教義が実質的な意味を持たなかった団体もあり、「宗教教団」になることと「教義」の内容にどのような関係があったのか、に今後注目していきたい。

## 2022 年度公開教学講座のご案内

### — 信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ（8） —

2022 年度の公開教学講座は、オンラインで配信しております。

オンライン配信中

第 1 回 5月 永尾教昭所長  
151 話「をびや許し」

第 2 回 6月 澤井真研究員  
111 話「朝、起こされるのと」

第 3 回 9月 岡田正彦研究員  
139 話「フラフを立てて」

第 4 回 10月 八木三郎研究員  
108 話「登る道は幾筋も」

今後の配信予定

第 5 回 11月 森洋明研究員  
119 話「遠方から子供が」

第 6 回 1月 堀内みどり主任  
126 話「講社のめどに」

グローバル天理

第 23 巻 第 11 号（通巻 275 号）

2022 年（令和 4 年）11 月 1 日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion  
Tenri University

発行者 永尾教昭

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒 632-8510 奈良県天理市杣之内町 1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>

E-mail [oyaken@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:oyaken@sta.tenri-u.ac.jp)

印刷 天理時報社

Printed in Japan